「探究し続ける縣陵人」のための情報誌

TANKYU NEWS

11 Nov.

MATSUMOTO AGATAGAOKA Senior High School

発行　探究学習推進室
〒390-8543 松本市県２－１－１
松本県ケ丘高校　TEL 0263-321142

東京から台湾へ

10 月 31 日(火)～11 月 2 日（木）、１年生の首都圏研修を無事終えました。1 日目はＴＧＧでの英語研修、2 日目は班別の企業等研修、3 日目はコース別の大学等研修と盛りだくさん。いずれも縣陵ならではの、自由度の高い研修でした。1 泊目の宿舎は「オリンピックセンター」で、ちょっと合宿ぽい雰囲気で慣れない人には大変だったかもしれませんが、それも一つの経験。縣陵生ならではの臨機応変な対応で、良い研修となりました。2 日目の班別も約 70 班に分かれての研修で、引率団による「連れまわし」式とはちがい、ドキドキとワクワクが詰まった素晴らしい研修となりました。

普通科 2 年生、12 月 4 日から台湾へ

普通科二年生はいよいよ台湾研修へ出発します。これまで事前研修として、台湾高雄市の高校（高級中学校）との交流も行ってきました。海外が初めてという人もそうでない人も、普通の旅行では経験できない多くの出来事に遭遇するはずです。体調管理に気を付けて、楽しみながら学んでください。

国際社会の課題と向き合う　3 日目

探究科海外ボランティアコースでは日本国際ボランティアセンターの方から、パレスチナ支援のボランティアについてレクチャーを受けた後、パレスチナ刺繍の体験も行いました。ある生徒は（刺繍について）「パレスチナでは貴重で重要な収入の手段として女性たちが行っていると聞き、糸と 1 回 1 回通す中にも現地の人たちには家族を守るためという強い思いが込められているように感じた」と感想を述べました。探究科ではこのほかにもシリア難民の方の話を直接聞くコースもあり、今、世界で起こっている目を背けたくなるような困難に向き合う研修となりました。

パレスチナ刺繍を体験する探究科のみなさん

おもな行程　4 泊 5 日

12 月 4 日　移動日・台湾上陸
12 月 5 日　高雄へ・学校交流（3 校）
12 月 6 日　高雄・台南・嘉義ＦＷ
12 月 7 日　中国文化大・Ｂ＆Ｓ
12 月 8 日　帰国

Crossing the border takes courage, but have confidence in yourself. Life is full of encounters and challenges.　（台湾研修のしおりより）

しおりの表紙　尼崎希美さん（2H）作

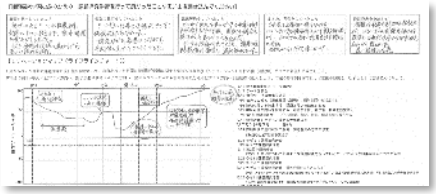
普通科２年課題探究発表会を実施　11/2

今年も光った多様性なテーマ設定

11 月 2 日（木）、普通科２年生は探究科よりも一足早く課題探究発表会を実施しました。今年も自由で多様な面白いテーマによる探究発表が並びました。ある先生は「本当に面白がって探究している人が多くて、すごくよかった」との感想。各教室内での発表でしたが、前向きに、自分なりに興味のあることを追求した姿が見え、とても印象的でした。また、中間発表も繰り返してきただけあって、プレゼンテーションレベルが相当高まっています。どこへ行っても人前で話せる縣陵生のたくましさを垣間見ました。普通科の課題探究はこのあと、1 月の KENRYO Researchers Grand-Prix へ続きます。

「振り返り」を大切にしよう

約半年にわたって展開された「個人課題探究」は自分の人生にとって、どんな意味を持ったでしょうか。反省点もあれば身についたこと、新たな疑問、将来への希望、さまざまなことが頭をよぎることでしょう。探究は、その時は必死に目の前の課題に取り組んだはずでも、振り返りがなければ、「自分のもの」にならず、忘れられた過去の経験になってしまいます。最終的な結果ではなく、過程をみてみると、みんな結構すごいことやってきたことがわかると思います。



今年度、「振り返り」で使用したモチベーションマップ。夏休みはさんで約半年間、自分がなにをしてきたのか確認した。

「**地球って美味しいの？**」をテーマに探究した２Ｇの山田一輝さんは、普通は食材として考えられていない、そこら辺の木などを食べられるようにするための化学実験を繰り返し、実食による検証を多数おこなった。その間ずっと自分で考え、楽しみながらのめりこんでいった。

グローバルサイエンティストアワード　升田陽美さん(２A)入賞

製作したマーカを手にする升田陽美さん

人に頼れたこと　大きい

鹿児島県で開催されたた第６回グローバルサイエンティストアワード（千葉工業大学ほか共催）で、2A の升田さんが（株）新日本科学賞を受賞しました。増田さんは、使用期限が短く普段使いかけで捨ててしまうことが多い「リップ」に着目。その美しい発色を活用して「マーカー」にアップサイクルするという研究を行いました。探究が行き詰まったとき、信州大学工学部の田川教授に出会い、大学の施設でアドバイスを受けながら実験を繰り返しました。化粧品から絵の具を作っている企業にもアドバイスを受けた升田さんは、「いままで自分の力だけでなんとかしようとしていたけど、プロの力をお借りできたのは大きい」といいます。ダンス部部長としても活躍する升田さんは探究をとおして、人に頼ることができるようになったとも。多くの人と関わってゆくことの大切さを語ってくれました。KRGP へ向けさらに探究は続きます。